

# 令和2年度事業報告

## 1 研究テーマ

酒造用原料米の酒造適性に関する研究

## 2 研究の現況・進捗状況

### (1) 概要

酒米研究会は、原料米の酒造適性を総合的に研究すること及び当該酒造期に使用される原料米の性質をできるだけ早期に把握し、それぞれの原料米に適した酒造管理を行えるようにすることを目的としている。

主な活動は、酒米研究会総会及び酒米懇談会の開催並びに原料米の全国統一分析である。また、本会は酒類製造技術者のみならず、育種・栽培関係者、米に関する研究者等、広く酒米に関心を持つ者も会員として受け入れている。現在の会員構成は、268名の個人と5機関から成っている。

令和2年度計画では9月に酒米懇談会を開催する予定であったが、令和2年6月に幹事会を開催し、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、今年度の酒米懇談会の中止を決定した。一方、酒米研究会については、オンラインで2回(令和2年9月15日、10月12日)実施し、各支部間での分析結果の活用方法などについて活発な意見交換を行った。また、総会は書面表決の方式を採用した。

令和2年度産原料米の全国統一分析については、酒類総合研究所が実施する早期(0次)酒造適性分析のための試料として、酒類総合研究所に試料提供した。酒類総合研究所で実施された早期(0次)酒造適性分析の結果について、詳細な解析を行い本年度の原料米の酒造適性情報として令和2年12月2日付で各支部に報告した。また、11月末までに各支部において分析を終了した結果を第1次の速報として令和2年12月18日付で、3月末までに終了した結果を第2次の結果として令和3年4月12日付で関係者に報告した。

### (2) 研究会開催等

#### イ 令和2年度酒米研究会総会

- ① 開催月日:令和2年7月13日～8月14日
- ② 開催方法:書面表決
- ③ 議案:令和元年度事業報告、令和元年度収支報告及び令和2年度予算案、令和2年度産米の分析計画等

#### ロ 令和2年度第46回酒米研究会

- ① 開催月日:令和2年9月15日(火)、10月12日(月)
- ② 開催方法:ZOOMによるオンライン
- ③ 議案:令和元年度産米分析結果、酒造用原料米全国統一分析結果の活用と分析法の課題、碎米の判定基準設定
- ④ 参加者 9月15日:28名、10月12日:21名

### (3) 刊行物の発行等

- ・令和2年度早期酒造用原料米全国統一分析解析結果（0次）（令和2年12月2日）
- ・令和2年度酒造用原料米全国統一分析結果（1次）（令和2年12月18日）
- ・令和2年度酒造用原料米全国統一分析結果（2次）（令和3年4月12日）

### (4) 研究連絡活動

#### (4-1)原料米全国統一分析

##### イ 研究会支部の状況

原料米全国統一分析に参加しているグループ数は、令和2年11月末現在で、試料の採取を依頼している機関を含めて30機関である。

##### ロ 令和2年度産米の分析

###### ① 早期分析(0次分析)のデータ解析

令和2年度産米の早期酒造適性分析のための試料を酒類総合研究所に提供した(58点)。酒類総合研究所にて実施された酒造適性分析のデータ及び各支部からの造り初期の酒造概況、気象・収穫に関するデータを詳細に解析し、令和2年産米の性質の早期予測(0次)として令和2年12月2日付で関係者及び各支部に周知した。

###### ② 1次分析

各支部において11月末までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次分析結果と併せ令和2年度産原料米の性質を予報し、令和2年12月18日付で日本酒造組合中央会会長及び各支部等に報告した。

###### ③ 2次分析

各支部において3月末日までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次・1次結果と併せ合計81品種283点の結果を2次分析結果として、令和3年4月12日付で日本酒造組合中央会会長及び分析を担当した各支部等に報告した。

#### (4-2)ホームページ

酒米研究会ホームページ(<http://www.sakamai.jp/>)において、酒米分析結果のデータ及び結果概要を更新し、会員間で有効に活用された。